

安芸市立小学校移転・統合について

令和7年度 地域説明会【資料】

(令和8年1月～2月)

安芸市教育委員会 学校教育課

目次

- 1 これまでの経緯
- 2 安芸市の人口推移
- 3 小学校施設の現状
- 4 児童数の現状
- 5 小学校移転・統合の目的
- 6 小学校移転・統合(案)
 - (1)位置 (2)児童数 (3)学校環境 (4)建築 (5)スクールバス
- 7 小学校移転・統合(案)のまとめ
- 8 目指す小学校
- 9 説明のまとめ

1 これまでの経緯

- | | |
|----------|---|
| 平成26年9月 | 保小中移転・統合検討委員会立ち上げ |
| 平成28年3月 | 検討委員会より報告書提出 |
| 平成28年12月 | 市長が方向性を表明（小学校8校→2校） |
| 平成29年度 | 保護者及び地域説明会を開催 <ul style="list-style-type: none">・旧清水ヶ丘中校区5小学校→1校（旧清水ヶ丘中学校跡地）・旧安芸中校区3小学校→1校（場所未定、津波浸水想定区域外） |
| 令和6年度 | 保護者及び地域説明会を開催 <ul style="list-style-type: none">・旧清水ヶ丘中校区5小学校→1校（旧清水ヶ丘中学校跡地）・旧安芸中校区3小学校→1校
（場所未定、安芸第一小学校の建替えも検討） |
| 令和7年度 | 地域説明会を開催 |

2 安芸市の人口推移

○住民基本台帳の人口

多くの小学校が建設された時期

	50年前	40年前	30年前	20年前	10年前	今年度
年度 (西暦)	S50 (1975)	S60 (1985)	H07 (1995)	H17 (2005)	H27 (2015)	R07 (2025)
総人口	24,950 162%	25,110 163%	23,265 151%	21,308 139%	18,458 120%	15,377 100%
若年女性人口 ※20～39歳女性	/			2,068 201%	1,510 147%	1,027 100%
0歳人口				131 262%	92 184%	50 100%
未就学児人口 ※0～5歳人口				869 231%	662 176%	376 100%
小学生人口 ※6～11歳人口	/			1,055 208%	779 154%	506 100%

(住民基本台帳資料より)

(住民基本台帳)

- 現小学校の多くがS40年代、S50年代に建設
- 現在の人口は、15,377人
H27年度(10年前)は 18,458人(現在の約1.2倍)
H17年度(20年前)は 21,308人(現在の約1.4倍)
S50年度(50年前)は 24,950人(現在の約1.6倍)
- 現在の若年女性人口は 1,027人
H27年度(10年前)は 1,510人(現在の約1.5倍)
H17年度(20年前)は 2,068人(現在の約2.0倍)
- 現在の小学生の人口は 506人
H27年度(10年前)は 779人(現在の約1.5倍)
H17年度(20年前)は 1,055人(現在の約2.1倍)

○人口問題研究所推計※国勢調査がベース

	5年前	今年度	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後
年度 (西暦)	R02 (2020)	R07 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
総人口 (R07年度との比較)	16,243 110%	14,725 100%	13,384 91%	12,081 82%	10,794 73%	9,550 65%	8,409 57%
若年女性人口 ※20～39歳女性 (R07年度との比較)	1,091 122%	892 100%	779 87%	711 80%	614 69%	519 58%	409 46%

※令和5年推計(移動仮定)

(人口問題研究所資料より)

(人口問題研究所推計)

- 人口は
10年後には現在の約82%
20年後には現在の約65%に減少すると推計
- 若年女性人口は、
10年後には現在の約80%
20年後には現在の約58%に減少すると推計

3 小学校施設の現状

(旧清水ヶ丘中学校区)

学校名	区分	建設年度 (西暦)	構造	階数	建物面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	うち運動場 面積(㎡)	耐震性	想定浸水深 ※最大級	30cm到達時間
下山小学校	校舎	S55年(1980)	R	3	1,234	4,543	2,349	耐震補強済	2~3m	60分以上
	体育館	S55年(1980)	S	1	532					
伊尾木小学校	校舎	S54年(1979)	R	2	1,729	8,770	4,152	耐震結果適	5~10m	30~40分
	体育館	H10年(1998)	S	1	975			新耐震基準		
川北小学校	校舎1	S49年(1974)	R	2	1,457	10,374	6,408	耐震補強済	5~10m	60分以上
	校舎2	S62年(1987)	S	2	448			新耐震基準		
	給食棟	H14年(2002)	R	1	96			耐震補強済		
	体育館	S47年(1972)	S	1	425			耐震補強済		
土居小学校	校舎1	S47年(1972)	R	2	1,530	8,447	4,617	耐震補強済	0.3~1m	60分以上
	校舎2	S56年(1981)	R	3	663					
	体育館	S46年(1971)	S	1	444					
井ノ口小学校	校舎1	S48年(1973)	R	2	1,535	8,002	4,355	耐震結果適	津波浸水想定区域外	
	校舎2	H8年(1996)	S	2	328			新耐震基準		
	給食棟	H10年(1998)	S	1	80			耐震補強済		
	体育館	S54年(1979)	S	1	580			耐震補強済		

(学校施設台帳より)

※構造のR表示は鉄筋コンクリート造、S表示は鉄骨造
 ※津波想定最大浸水深、30cm到達時間は、主たる建物の玄関前の情報(出典:高知県防災マップ)

(旧安芸中校区)

学校名	校舎 体育館	建設年度 (西暦)	構造	階数	建物面積 (㎡)	敷地面積 (㎡)	うち運動場 面積(㎡)	耐震性	想定浸水深 ※最大級	30cm到達時間
安芸第一小学校	校舎1	S44年(1969)	R	3	2,686	7,822	2,911	耐震補強済	1~2m	60分以上
	校舎2	S44年(1969)	R	3	647					
	校舎3	S44年(1969)	R	3	739					
	体育館1	S46年(1971)	S	1	618					
	体育館2	S59年(1984)	S	1	560			新耐震基準		
穴内小学校	校舎1	S57年(1982)	R	3	1,400	4,733	2,312	新耐震基準	津波浸水想定区域外	
	校舎2	S41年(1966)	S	1	200			※耐震診断未		
	体育館	S57年(1982)	S	1	540			新耐震基準		
赤野小学校	校舎1	S54年(1979)	R	3	1,670	5,015	2,818	耐震補強済	5~10m	30~40分
	給食棟	H5年(1993)	R	1	80			新耐震基準		
	体育館	S48年(1973)	S	1	422			耐震補強済		

(学校施設台帳より)

※耐震診断未については、補強耐震診断基準の面積要件以下であり、耐震診断が未実施である箇所

※構造のR表示は鉄筋コンクリート造、S表示は鉄骨造

※津波想定最大浸水深、30cm到達時間は、主たる建物の玄関前の情報(出典:高知県防災マップ)

4 児童数の現状

(旧清水ヶ丘中学校区)

多くの小学校が建設された時期

30年前 20年前 10年前 現在 1年後 2年後 3年後 4年後 5年後 6年後

学校名	建設年度 (西暦)	S50 (1975)	H07 (1995)	H17 (2005)	H27 (2015)	R07 (2025)	R08 (2026)	R09 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
下山小学校	S55年 (1980)	56	21	14	4	4	4	5	3	3	3	3
伊尾木小学校	S54年 (1979)	128	109	70	38	17	20	17	15	12	18	20
川北小学校	S49年 (1974)	143	197	170	135	55	53	56	49	53	54	47
土居小学校	S47年 (1972)	203	208	116	156	142	134	123	125	123	103	92
井ノ口小学校	S48年 (1973)	221	166	110	82	69	58	56	54	49	43	40
R07現在休校・廃校		96	20	3	2	0	0	0	0	0	0	0
旧清水ヶ丘中学校区計		847	721	483	417	287	269	257	246	240	221	202

R07の学習環境
4年生通常1学級 5・6年生複式学級 ※通常1、複式1 ※1～3年学級なし
2年生通常1学級 3・4年生複式学級 5・6年生複式学級 ※通常1、複式2 ※1年学級なし
各学年通常1学級 ※通常6
各学年通常1学級 ※通常6
各学年通常1学級 ※通常6

(学校基本調査より)

※将来の児童数の推計は、住民基本台帳の資料から、各小学校区の子どもの人数を計上

(旧安芸中学校区)

多くの小学校が建設された時期

30年前 20年前 10年前 現在 1年後 2年後 3年後 4年後 5年後 6年後

学校名	建設年度 (西暦)	S50 (1975)	H07 (1995)	H17 (2005)	H27 (2015)	R07 (2025)	R08 (2026)	R09 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
安芸第一小学校	S44年 (1969)	956	554	475	297	176	179	174	182	168	165	150
穴内小学校	S57年 (1982)	74	68	35	30	27	21	21	20	19	16	11
赤野小学校	S54年 (1979)	135	102	61	34	14	16	14	15	16	15	13
R07現在休校・廃校		50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旧安芸中学校区計		1,215	724	571	361	217	216	209	217	203	196	174

R07の学習環境
各学年通常1学級 ※通常6
1・2年生通常学級 3・4年生複式学級 5・6年生複式学級 ※通常2、複式2
2年生通常学級 3・4年生複式学級 5・6年生複式学級 ※通常1、複式2 ※1年学級なし

(学校基本調査より)

※将来の児童数の推計は、住民基本台帳の資料から、小学校区の子どもの人数を計上

(安芸市全体)

多くの小学校が建設された時期

30年前 20年前 10年前 1年後 2年後 3年後 4年後 5年後 6年後

学校名	建設年度	S50	H07	H17	H27	R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13
計		2,062	1,445	1,054	778	504	485	466	463	443	417	376
現在(R07)との比較		409%	287%	209%	154%	100%	96%	92%	92%	88%	83%	75%

(学校基本調査より)

○R7年度 学年別児童数

学校名	R07 児童数	うち 1年	2年	3年	4年	5年	6年	通常 学級数	うち 複式 学級数
		H30生	H29生	H28生	H27生	H26生	H25生		
下山小学校	4	0	0	0	2	1	1	2	1
伊尾木小学校	17	0	1	2	5	5	4	2	2
川北小学校	55	9	7	6	11	8	14	6	0
土居小学校	142	27	27	18	15	27	28	6	0
井ノ口小学校	69	9	9	13	9	13	16	6	0
旧清水ヶ丘 中学校区計	287	45	44	39	42	54	63	/	

安芸第一小学校	176	26	34	35	26	29	26	7	0
穴内小学校	27	7	4	2	4	4	6	4	2
赤野小学校	14	0	2	1	4	5	2	3	2
旧市立安芸 中学校区計	217	33	40	38	34	38	34	/	

合計 児童数	504	78	84	77	76	92	97	/	
-----------	-----	----	----	----	----	----	----	---	--

(学校基本調査より)

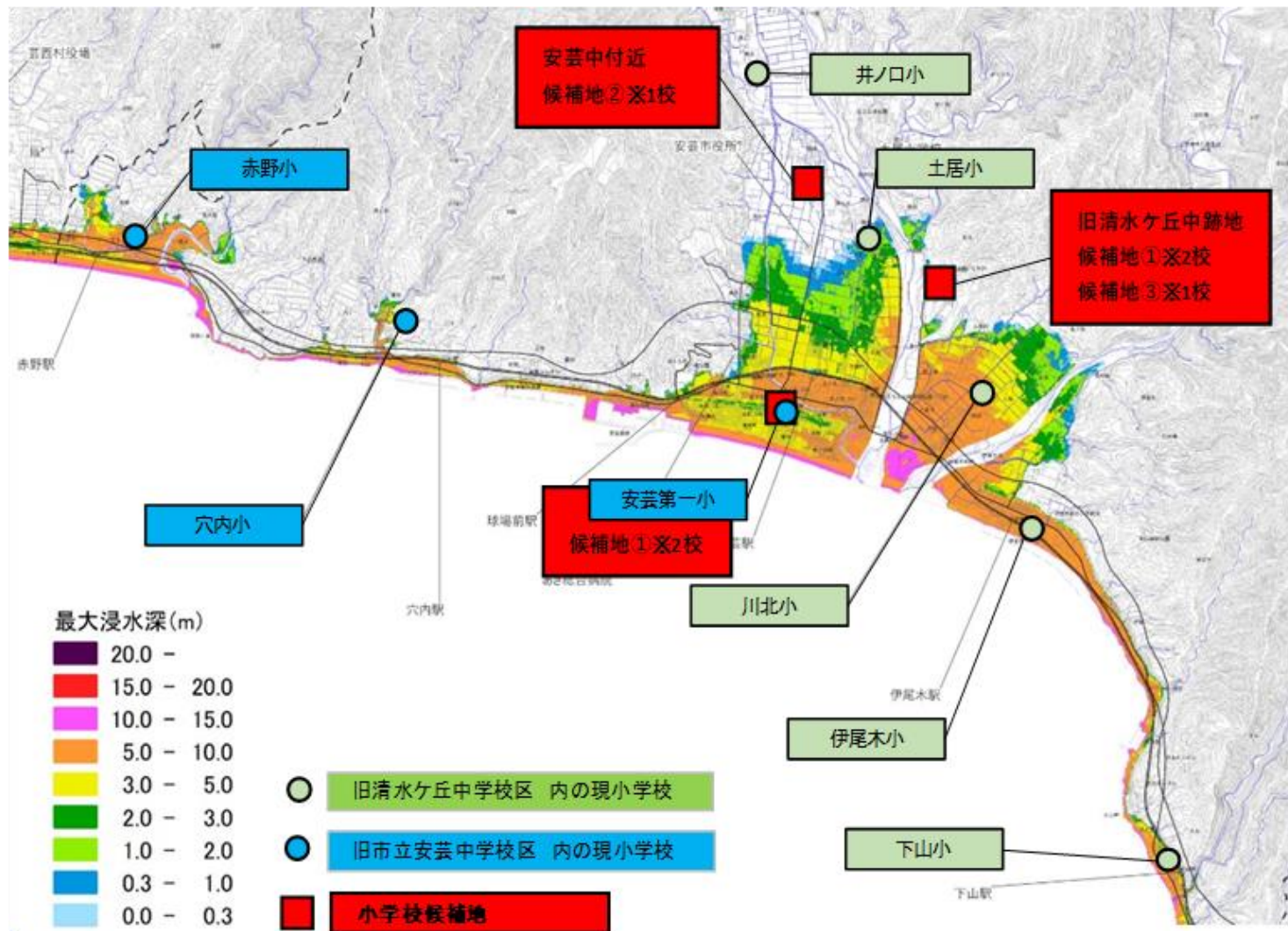
は、複式学級

5 小学校移転・統合の目的

- 南海トラフ地震に備え、子どもたちの命を最優先した移転
- 児童が減少するなかであっても将来を見とおし、教育の質と持続可能性を確保する
- 教育予算の集中投資により、学びと教育の質を向上させる

6 小学校移転・統合(案)

(1)位置



(2校体制)

候補地①

- ・旧清水ヶ丘中学校跡地
- ・安芸第一小学校

(1校体制)

候補地②

- ・安芸中学校付近

候補地③

- ・旧清水ヶ丘中学校跡地

令和7年度[高知県版]南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測に情報を追加

(2) 児童数

(2校体制)

- 旧清水ヶ丘中学校跡地に新築する小学校は、1・2年生は2クラス、3～6年生は、1クラスの学年も編制される
- 2クラス編制される学年であっても、特別支援学級の児童数(クラス編制時に減算)、児童数の減少により、1クラスの編制も想定される
- 安芸第一小学校は、各学年1クラス編制が想定される
- 将来的には、2校とも各学年1クラスが基本となることが想定される

○2校体制		1・2年生 ②子ども・子育て支援事業計画の推計人口を参考				3～6年生 ①住民基本台帳より推計				通常 学級数		うち複式 学級数	
		R15推定 児童数	うち 1年 R08生	2年 R07生	3年 R06生	4年 R05生	5年 R04生	6年 R03生					
案 ①-1	旧清水ヶ丘 中学校跡地 (5校→1校)	下山小、伊尾木小、 川北小、土居小、 井ノ口小	198	32	33	29	29	35	40	/			
			※学級数	2	2	1	1	1	2				
	安芸第一小学校 (3校→1校)	安芸第一小、 穴内小、赤野小	148	24	25	21	21	26	31	/			
			※学級数	1	1	1	1	1	1				
案 ①-2	旧清水ヶ丘 中学校跡地 (7校→1校)	下山小、伊尾木小、 川北小、土居小、 井ノ口小、 穴内小、赤野小	221	36	37	32	32	39	45	/			
			※学級数	2	2	1	1	2	2				
	安芸第一小学校 (1校→1校)	安芸第一小	125	20	21	18	18	22	26	/			
			※学級数	1	1	1	1	1	1				

案①-1
・旧中学校の校区を
基本とした、校区設
定

案①-2
・赤野小学校区、穴
内小学校区を浸水
想定区域外の旧清
水ヶ丘中学校区の
グループにしたもの

(1校体制)

- 津波浸水想定区域外への小学校の設置は、児童の安全を最大限、確保する選択
- 長期的に各学年2クラスが実現する(人口移動を考えない場合、出生数が36人を下回る学年は1クラス編制となる)
- 建設コストが軽減され、将来世代にわたって負担を軽減できる

○1校体制

②子ども・子育て支援事業計画の推計人口を参考
 1・2年生
 3～6年生
 ①住民基本台帳より推計

案②	小学校候補地	現小学校	R15推定児童数	1・2年生		3～6年生				通常学級数	うち複式学級数
				うち1年 R08生	2年 R07生	3年 R06生	4年 R05生	5年 R04生	6年 R03生		
	市立安芸中学校付近 (8校→1校)	下山小、伊尾木小、川北小、土居小、井ノ口小、安芸第一小、穴内小、赤野小	346	56	58	50	50	61	71	13	0
※学級数			2	2	2	2	2	3			

案②

- 中学校、(保育)との連携面では、最善の位置となる
- 保護者が、児童、生徒、(園児)の送迎を行う場合は、負担が軽減される

案③	小学校候補地	現小学校	R15推定児童数	1・2年生		3～6年生				通常学級数	うち複式学級数
				うち1年 R08生	2年 R07生	3年 R06生	4年 R05生	5年 R04生	6年 R03生		
	旧清水ヶ丘中学校跡地 (8校→1校)	下山小、伊尾木小、川北小、土居小、井ノ口小、安芸第一小、穴内小、赤野小	346	56	58	50	50	61	71	13	0
※学級数			2	2	2	2	2	3			

(案③)

- 津波浸水想定区域外に加えて、洪水想定区域外に位置し、安全面では一番の立地となる

①R15推定児童数は、R6年度生まれを第3学年、令和5年度生まれを第4学年、以下同様にして推計(人口移動は加味していない)。

②R15推定の第1学年(R8生まれ)、第2学年(R7生まれ)の児童数は、子ども・子育て支援事業計画の推計人口を参考に推定。
 ※推定児童数から推定する学級数は、特別支援学級児童数を加味していない。

(学級編制について)

- 小学校1・2年生は、30人で1学級を編制、小学校3～6年生は、35人で1学級を編制
- 上記には、特別支援学級の児童数は除く

(3) 学校環境

計画案 比較内容	1校体制（案② 案③） ※1学年2クラス編制	2校体制（案①-1 案①-2） ※1学年1クラス編制	1クラスの人数が少ない学校 複式学級を運営する学校
学習面	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>集団の中で、多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしやすい</u> ・ <u>グループ学習や専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい</u> ・ <u>1学年2クラス編制(担任が2人体制)となり、学校内で学年単位の授業研究が進めやすい</u> ・ <u>学校行事等の集団活動に活気が生じやすい</u> <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童一人ひとりに目が届きにくくなる(少人数の学校と比べて)</u> ・ <u>行事において個別活動機会の設定がしにくくなる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>グループ学習や専科教員の配置を検討することにより、多様な学習・指導形態を取りやすい</u> 	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導ができる</u> ・ <u>異学年の交流が行いやすい</u> ・ <u>行事等において個別活動機会の設定を行いやすい</u> <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>集団の中で、多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨する機会が少なくなる</u> ・ <u>運動会や学校行事に制約が生じる</u> ・ <u>グループ学習等の多様な学習・指導形態が取りにくい</u> <p>(複式学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>異学年が同時にひとりの先生から授業を受けるため、一方の学年が指導を受けている間、一方の学年は自主課題等をする運用となる</u>
生活面	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>切磋琢磨することを通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい</u> ・ <u>クラス替えがしやすいことから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい</u> <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>全教職員が児童一人ひとりの把握が難しくなる(少人数の学校と比べて)</u> ・ <u>児童の通学負担が大きくなる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>児童間の人間関係が深まりやすい</u> 	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>全教職員が児童一人ひとりの把握がしやすい</u> ・ <u>児童の通学負担が少ない</u> <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい</u> ・ <u>人間関係や相互の評価等が固定しやすい</u> <p>(複式学級を運営する小規模校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>男女比に極端な偏りが生じる可能性がある</u>
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教職員がある程度多いため、バランスの取れた配置が行いやすい</u> ・ <u>教員間で相談・研究・協力・切磋琢磨が行いやすい</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教職員のバランスの取れた配置が行いにくい</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>教職員が少ないため、バランスの取れた配置が難しい</u> ・ <u>教員間で相談、研究、協力、切磋琢磨が行いにくい</u>
保護者・地域との連携	<p>(メリット) <u>保護者の負担が分散される</u></p> <p>(デメリット) <u>保護者、地域との連携が図りにくい</u></p>		<p>(メリット) <u>保護者、地域との連携が図りやすい</u></p> <p>(デメリット) <u>保護者の負担が集中する</u></p>

(4) 建築

計画案 比較内容		2校体制		1校体制			
		案①-1 ※旧中学校区 案①-2 ※赤野、穴内を旧清水中学校跡地へ		案③		案②	
		安芸第一小学校※RC2階		旧清水ヶ丘中学校跡地※RC2階		安芸中学校付近※RC2階	
基本	(敷地面積)	9,611㎡(さらに狭くなる)		21,600㎡		21,600㎡(見込み)	
	(災害想定)	<ul style="list-style-type: none"> 最大津波浸水深 1~2m 30cm津波到達時間 60分以上 液状化の可能性 大 洪水浸水想定区域外 		<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定区域外 液状化の可能性 小又は無 洪水浸水想定区域外 		<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定区域外 液状化の可能性 無 最大洪水浸水深 0.5~3m 	
特 徴		<ul style="list-style-type: none"> 基本的に用地取得が不要 市街地に居住する児童の通学の利便性が良い 		<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水及び洪水想定区域外 基本的に用地取得が不要 		<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定区域外 	
課 題		<ul style="list-style-type: none"> 津波浸水想定区域に位置するため児童の安全面の課題が残る 敷地がさらに狭くなる(周辺道路の確保のため) 用地の嵩上げを伴う 拡大のための用地取得が難しい 建物の解体が伴う 建替え期間は仮校舎が必要 		<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財の調査が必要 ※校舎等の解体箇所も必要 建物の解体が伴う 		<ul style="list-style-type: none"> 新たな用地取得が必要 埋蔵文化財の調査が必要 用地の造成工事が必要 	
工 期		6年7ヶ月(開校時期未定)		6年8ヶ月(R15開校)		7年5ヶ月(R16開校)	
概算費用(R7現在)		案①-1 約50億円 案①-2 約50億円		案①-1 約47億円 案①-2 約48億円		案③ 約52億円 案② 約49億円	
概算費用		案①-1 97億円(R7現在) 126億円(R12工事発注見込) 案①-2 98億円(R7現在) 128億円(R12工事発注見込)		案③ 52億円(R7現在) 68億円(R12工事発注見込)		案② 49億円(R7現在) 64億円(R12工事発注見込)	

※概算費用は、地盤調査の結果、解体する建物の状況により大きく変動する。

(5) スクールバス

(現 状)

- ・ 安芸市ではスクールバスの運行を実施していない(公共交通機関の利用助成は実施)
- ・ 自転車通学の状況は下表のとおり

小学校名	下山 小学校	伊尾木 小学校	川北 小学校	土居 小学校	井ノ口 小学校	安芸第一 小学校	穴内 小学校	赤野 小学校
届出数	なし	なし	2人	2人	4人	8人	なし	なし
許可条件	—	—	距離2km以上 3年生以上	距離2km以上	校区外 3年生以上	距離2km以上 4年生以上	—	—

(協議案)

小学校の位置を決定後、保護者からの意見収集、開校準備委員会(設置予定)で協議し決定する予定

- ・ 通学距離が概ね2km圏内を徒歩通学範囲
- ・ 1年生～3年生は、通学距離が概ね2km以上でスクールバスでの通学
- ・ 4年生以上は、通学距離が概ね2km～4kmで自転車通学、4km以上でスクールバスでの通学

計画案 比較内容	2校体制		1校体制	
	案①-1 ※旧中学校区 案①-2 ※赤野、穴内を旧清水中学校跡地へ	案①-1 4台 案①-2 6台	案③ 9台	案② 11台
想定運行台数 ※マイクロバスを想定	案①-1 2台 案①-2 0台	案①-1 4台 案①-2 6台	案③ 9台	案② 11台
想定運行費用	年49百万円		年74百万円	年89百万円

※想定運行費用はR7現在の価格を基準としたものであり、車両購入費も含む

7 小学校移転・統合(案)のまとめ

項目	1校体制 (標準規模)案②③ ※長期にわたり1学年2クラス編制が想定される	2校体制 (標準規模)案①-1、①-2 ※中長期的に1学年1クラス編制が想定される	現体制 (小規模校) ※8小学校中4校が複式学級を運用
児童の安全面	◎ ・津波浸水想定区域外への設置により児童の安全を最大限確保	△ ・安芸第一小学校は津波浸水想定区域内に位置し児童の安全面に課題が残る	× ・8小学校中6校が津波浸水区域内に位置し早期に対応が必要
学校での学習面 ※(3)学校環境を参照	◎ ・多様な考え方にふれ合うことや多様な学習・指導形態を取りやすい ・学年単位で授業研究が進めやすい ・児童一人ひとりに目が届きにくくなる	○ ・多様な考え方にふれ合うことや多様な学習・指導形態を取りやすい ・児童一人ひとりに目が届きにくくなる	△ ・児童一人ひとりに目が届きやすい ・多様な考え方にふれ合う機会が少なくなることや多様な学習・指導形態を取りにくい
学校での生活面 ※(3)学校環境を参照	○ ・切磋琢磨することを通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい	○ 同左	△ ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい
学校経営 ※(3)学校環境を参照	◎ ・教職員のバランスの取れた配置が行いやすい	○ ・教職員のバランスの取れた配置が行いにくい	△ ・教職員のバランスの取れた配置が難しい
児童・保護者の負担	△ ・通学距離、時間が長くなり通学面での児童の負担→スクールバスにより軽減 ・保護者の負担が分散 ※安芸中の近くなれば便利との声がある	△ 同左	○ ・全体的に通学距離、時間の面で有利 ・保護者の負担が集中
地域への影響	△ ・学校を中心とした地域行事、活動ができなくなる→地域による廃校を活用としたコミュニティ活動体制の支援	△ 同左	◎ ・学校を核としたコミュニティ活動が継続
財政面	○ ・学校の建設費用が抑えられ ・スクールバスの運行に多額の費用を要する ・将来世代の負担を軽減できる	△ ・スクールバスの運行に一定の費用を要する	× ・現施設の維持管理又は、建設費に多額の費用を要する ・スクールバスの運行はない
文部科学省 手引き要約 ※資料参照	※適正規模	教育の課題を整理したうえで、統合も含め今後の教育環境の在り方を検討が必要がある。	教育上の課題があり統合等の検討が必要。困難な場合は、メリットを生かし、デメリットを解消・緩和の検討・実施が必要。

※文部科学省手引きとは、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」

8 目指す小学校

○学校教育

児童の安全を確保し、集団のなかで、多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することにより、一人ひとりの資質・能力を伸ばすとともに、社会性や協調性、たくましさを育む。

- 教育予算の集中投資による学校教育の充実
- グループ学習や専科教員による指導を検討し、多様な学習・指導形態による運営を行う
- 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成を図る
- 教員の指導力の向上を図る
- 特別支援教育等の充実
- 新たな不登校を生み出さない取り組み

○学校施設・運営等

(基本)

- バリアフリー(障害のある生徒への配慮、災害時の避難場所としての機能強化)
- 空調完備(学習意欲や集中力向上、熱中症予防)
- ICT機器整備と活用の充実(電子黒板、タブレット、無線LAN、デジタル教材の活用)

(さらに)

- 通学支援(スクールバスの運行、公共交通機関の活用)
- 多様な教育活動に対応できるオープンスペースを設置
- 相談体制の充実(相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー配置の充実)
- 不登校傾向児への配慮
- 図書環境の充実
- 遊具の充実
- 安全性の確保(けが、防犯対策)
- 教員の負担を軽減し子どもとの時間を確保(設備の充実、ICT技術のさらなる活用)

○地域とのつながり

- 居住地単位の地域学習やグループ学習の設定
- 地域の活動への参加を促進

○子育て支援機能

- 学童保育の併設
- 放課後活動の充実(無料の習い事教室)

○その他

- 学校施設の解放エリアの設定
- 防災拠点としての整備

※上記の内容をたたき台とし、開校準備委員会等での意見を反映させながら新しい小学校を創ってまいります

9 説明のまとめ

(市の考え)

これまでの2校体制に加えて1校体制を検討した結果、1校体制には教育面、財政面での優位性が見られる一方、通学に係る児童の負担を始めとした課題も多い。このため、説明会で意見を聞いたうえで判断を行います。

- 2校体制
案①-1 案①-2旧清水ヶ丘中学校跡地、安芸第一小学校
安芸第一小学校については、津波浸水想定区域内に位置することから、児童の安全性に課題が残る
- 1校体制
案②安芸中学校付近 小中連携が図られ教育面で優位性が高い
案③旧清水ヶ丘中学校跡地 津波に加え洪水想定区域外で安全面で優位性が高い

(今後の予定)

- 説明会の意見集約、内部協議 → 最終決定(6月)

※事業着手

- 基本構想、基本設計、実施設計
- 開校準備委員会設置
- 各種工事発注

○未来を担う子ども達の安全と教育環境について、将来を見据えた視点で、ご意見をください

- 1校体制、2校体制、それ以外について
- 立地について
- 目指す小学校について(どのような学校にしたいか)
- 地域との関わりについて
- その他

資料

4 望ましい学校規模と適正配置について

①学校の適正規模

■文部科学省(学校教育法施行規則)

- ・小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とします(各学年 2 学級～3 学級になることを意味します)。ただし、地域の実態その他により特別な事情のあるときは、この限りではありません。
- ・1 学級の人数は 40 人(第 1 学年は 35 人)となっています。従って 41 人の場合は 2 学級となります。

■高知県教育委員会による市町村立小・中学校の標準法による学級編制

- ・小学校 1・2 年生において 30 人を超える学級及び小学校 3～6 年生において 35 人を超える学級を有する学校であること。

■文部科学省(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令)

- ・通学距離が、小学校にあってはおおむね 4 キロメートル以内とされています。

◆文部科学省(公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き ～少子化に対応した活力ある学校作りに向けて～)

(通学距離による考え)

- ・徒歩や自転車による通学距離としては、小学校で 4 キロ以内、中学校で 6 キロ以内という基準はおおよその目安として引き続き妥当であると考えられます。その上で、各市町村においては、通学路の安全確保の状況や地理的な条件に加え、徒歩による通学なのか、一部の児童生徒について自転車通学を認めたり、スクールバスを導入したりするなども考慮の上、児童生徒の実態や地域の実情を踏まえた適切な通学距離の基準を設定することが望まれます。
- ・適切な交通手段が確保でき、かつ遠距離通学や長時間通学によるデメリットを一定程度解消できる見通しが立つということを前提として、通学時間については、「おおむね1時間以内」を一応の目安とした上で、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定することの適否も含めた判断を行うことが適当である。

②学校規模の標準を下回る場合の対応の目安

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
(平成27年1月27日 文部科学省)
P11～12

【1～5学級:複式学級が存在する規模】

※下山小学校、伊尾木小学校、穴内小学校、赤野小学校

おおむね、複式学級が存在する学校規模。学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等により統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要がある。

【6学級:クラス替えができない規模】

※川北小学校、土居小学校、井ノ口小学校

おおむね、複式学級はないがクラス替えができない学校規模。一般に教育上の課題があるが、学校全体及び各学年の児童数に大きな幅があり、児童数が少ない場合は特に課題が大きい。このため、児童数の状況や、更なる小規模化の可能性、将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。地理的条件等により統合困難な事情がある場合は、小規模校のメリットを最大限生かす方策や、小規模校のデメリットの解消策や緩和策を積極的に検討・実施する必要がある。

【7～8学級:全学年ではクラス替えができない規模】

※安芸第一小学校

おおむね、一つ又は二つの学年以外でのクラス替えができない学校規模。学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題を整理した上で、学校統合の適否も含め今後の教育環境の在り方を検討することが必要である。今後の児童数の予測を踏まえ、将来的に複式学級が発生する可能性が高ければ、6学級の場合に準じて、速やかな検討が必要である。

【9～11学級:半分以上の学年でクラス替えができる規模】

おおむね、全学年でのクラス替えはできないものの半分以上の学年でクラス替えができる学校規模。学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題を整理した上で、児童数予測等を加味して今後の教育環境の在り方を検討することが必要である。

(参考)

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
(平成27年1月27日 文部科学省)



	保護者	地域
安芸第一小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸第一小学校が、小学校の状態で、発災時に避難所とする方が良い。 ・ 利便性が良い所で、避難ができる所に建てて欲しい。 ・ 安芸第一小学校に、統合して欲しい。 ・ 運動場の面積が、児童数の割には小さい。 ・ 学校に馴染めなかった時に、市に2校あった方が、子どもにとっては良い。 ・ 3校を残すというのは不可能か。例えば、旧清水ケ丘中学校校区、安芸第一小学校、穴内小学校と赤野小学校で1校。 	<p>(市民会館・黒鳥公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸地区は場所的に、このあたりになるだろうという、安心感がある。 ・ 安芸第一小学校は、敷地が狭い。 ・ かさ上げをすれば、安芸第一小学校でも安全。
穴内小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な浸水区域外から、危険な浸水区域内に通わせることには、納得できない。 ・ 児童数が多いことが、苦手な子どもたちのために、小規模校は考えていないか。 ・ 穴内小学校に、統合の話はないのか。安芸第一小学校の場所はきびしい。 ・ 地震時、子どもを迎えに行くためには、浸水区域外に建てて欲しい。 ・ 行事のための駐車場の確保が大事。(一定の広さの敷地が必要) ・ 小学校は、地域を育ててくれる。地域から絶対無くすべきではない。 	<p>(穴内公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安芸第一小学校の建替えは、かさ上げをしても反対。浸水しなくても津波火災の危険がある。移転・統合先は津波浸水区域外にするべき。 ・ 津波や校舎の老朽化を考えると、早くして欲しい。 ・ 現状は、小規模校すぎて限界がきている、統合は仕方がない。市に1校で良いのではないか。 ・ 1校で新安芸中学校の近隣が望ましい。 ・ 津波浸水区域外から、浸水区域内への通学には抵抗がある。穴内地区がベスト。 ・ 地域に学校は必要。保育所と小学校は、できるだけ地域に置いて欲しい。 ・ 移転・統合は、スクールバスを前提に提案して欲しい。 ・ 地域全体が、子どもを育てるという思いがある。地域とのつながりを切らない必要がある。子育て世代が、地域を離れなくてはならない根底の部分を考えて欲しい。
赤野小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統廃合がベストのような話をするが、手引き(公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(文部科学省))にある、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する支援をしているのか。小規模校への支援を検討してもらわないといけない。 ・ 小規模校のメリットを生かしていない。デメリットも顕著になっていない。 ・ 各地域・学校に、どう対応していくのかを考えるのが先。 ・ 赤野に統合すれば、誰も反対しない。 ・ 赤野小学校を残した時の支援も、検討してもらわないといけない。子どもがいなくなり、閉めるまでの間の支援、人員配置について。 ・ 小規模校のメリットを生かし、いろんなことを試して、検証していただきたい。それを尽くした上で、無理となれば、のむしかない。やってもいないのに、のめというのは無理。赤野小学校、赤野地区を盛り上げる取り組みを考えたら話を聞ける。 ・ 単に学校の人数ではなく、集落全体を起点とした活性化をやらなければならない。 ・ スクールバスが出たとしても、被災した場合、どうやって帰ってくるかまで具体的に考えて欲しい。 ・ 1校でも2校でも、どうやって通学するかが重要。 	<p>(赤野公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まず、やらなければならないのは、統合ではなくて、小規模校のメリットを最大限に生かし、児童生徒への教育を充実させる方策、支援。 ・ 全小学校を全部建替えた時の金額も含めた提案をして欲しい。全体の中で判断する方が分かり易い。 ・ 統合は、小学校を奪われ、メリットはひとつもない。補填してくれるのか。 ・ 今のままでも良い。統合して集める理由がどこにあるのか。 ・ 複式学級がデメリットとは思っていない。偏った見方をしないでください。 ・ 小規模校のメリットを全て無くすところに、何のメリットがあるのかと疑問に思います。 ・ 学校を無くすことよりは、赤野地区をどう盛り上げ、赤野小学校を中心にどんな支援ができるという話なら、建設的で効率的に話ができる。 ・ 人口減対策、考えられる最大限の計画を考えてもらいます。学校教育課だけではなくて、他のいろんなこともやっていただきたい。 ・ 学校は、近くに通って避難訓練をしたら良い。浸水区域内だから別の場所という話はおかしい。 ・ 統合は、絶対反対だが、もしもの時は通学のことはよく考えて欲しい。

○共通	保護者	地域
安芸おひさま保育所	<ul style="list-style-type: none">・ 浸水区域外に建つならありがたい。・ 統合に賛成。対話的な学び合い、同学年で多様な考え方を吸収する環境は大事。	
矢ノ丸保育園	<ul style="list-style-type: none">・ 小規模校は、先生の目が届き、児童の変化に気付いてもらいやすい。・ 安芸第一小学校は、液状化対策をしないのか。・ スクールバスがないと、負担が大きい。・ クラス替えができる方が良い。・ 旧清水ヶ丘中学校跡地に1校で良い。子どもが減っていくので1校で良い。	

	保護者	地域
下山小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険でないところ（浸水区域外）、安全な所が良い。 ・ スクールバスが出るのなら、1校でも良い。場所は少々遠くなっても一緒。 ・ 清水ケ丘中学校跡地に建てない理由がない。（浸水区域外、給食センターに隣接する防災拠点） ・ 浸水区域を通行する、スクールバスの被災時の対応。 	<p>(下山小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3校目として、地震、避難所、発達障害への対応等、あらゆることを想定して、人口にこだわらず、県東部の拠点となる学校を大山岬に作れば良い。 ・ 3校は、予算的に難しいのでは、市の借金が増えては困る。
伊尾木小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ とにかく早くして欲しい。現状は不安。 	<p>(伊尾木公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移転を早く進めなければならない。2校ありきだから進んでいない。 ・ 地域に小学校は必要であり、無くなれば地域が消滅する。 ・ 伊尾木小学校を高台移転して特認校の指定を受けたら良い。 ・ 伊尾木小学校の高台移転にこだわらず、命を守るためにとにかく早く進めて欲しい。 ・ 市は人口減少対策ができていない。すべき。 ・ 説明会の周知が不十分である。
川北小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複式学級には不安がある。早く統合して各学年（単式）で教えてもらいたい。 ・ 今後の児童数を考えると1校でも良いが、校区の広さ、ゆとりを持たすには2校が良い。 ・ 安芸市に2校建ててやっていけるのか。 ・ 新安芸中学校の横に1校でも良いが、人数が多いデメリットもある。 ・ 1校で、新安芸中学校の横は、狭いので旧清水ケ丘中学校跡地。 ・ 新安芸中学校の横なら、兄弟の送迎は助かる。 	<p>(川北公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市に1校で良いのではないかと。地区に小学校が無くなれば、寂しくなるが、子どものことを考えると、市に1校。 ・ 市庁舎、新安芸中学校の付近に建設し、教育的な拠点に。 ・ 地震のことを考えると、早く進めて欲しい。 ・ 何をもって合意形成と判断するのか。 ・ 地域活動を存続させる方法を考えて欲しい。
川北小学校 奈比賀分校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ※休校中 	<p>(奈比賀公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水区域内に設置すべきでない。 ・ 2校建ててもまた、統合の話が出るのではないかと。
土居小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧清水ケ丘中学校跡地は、道路対策が必要（児童の安全確保、不審者対策、土砂崩れ対策、親の送迎対応） ・ 1校でも良い。新安芸中学校の近くなら、送迎しやすい。 	<p>(土居公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが、増える見込みがないので、市に1校で良いのではないかと。 ・ 仕事が無い。若い人が出て行かないようにしないといけない。 <p>(江川公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路も整備されてきており、新安芸中学校の近くに建てた方が良い。 ・ 説明会の周知が不十分。

	保護者	地域
井ノ口小学校	<ul style="list-style-type: none"> 旧清水ケ丘中学校跡地は、橋の崩壊で孤立する。 避難所のことも含め2校が良い。人が集まれる場所は大切。 1校でも良い。 旧清水ケ丘中学校跡地なら、道をやり直してくれるだろう。避難施設でもあるので。 	<p>(井ノ口公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安芸第一小学校の建替えは、リスクが高い。 市に1校で良い(中学校・市役所付近)。 新安芸中学校の近くなら、被災時のリスクが低く、小中連携に有利。さらに保育もあれば理想。 旧清水ケ丘中学校跡地に建てるより、広い場所に建てて欲しい。 ざっくりとした金額を出してもらったら、話が見えてくる。 <p>(栃ノ木公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールバス前提でないと、話にならない。 地震がいつ来るか分からないのに、移転・統合が、いつになるか、決まっていないこと自体がおかしい。 旧安芸中学校、旧清水ケ丘中学校の校区で考えるからいけない。南部(下山・伊尾木・川北・安芸第一)、北部で時期をずらして統合すれば良い。 移転・統合先は、井ノ口地区が一番良い。防災面で良い所なら、安心して通わせることができる。
東川小学校	※休校中	<p>(東川公民館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域から教育施設がなくなるデメリットの部分は、相当大きな影響がある。 地域活動が、良い方向、違う方向に出るのかは、後々の地域の人たちの取り組みや、やり方で変わってくると思うが、大きな課題。 学校がなくなれば地域は衰退をしていく。その衰退していく部分をどうカバーし、将来に向けてどう発展させるのかは、地域活動の核となる公民館活動も重要。どう取り組んでいくかの議論は行政内部でも必要ではないか。 ハード面だけでなく、ソフト面でカバーしないと全体はカバーしきれない。 残った学校をどうするのかも、地域としては大きな課題。 保護者は、子ども安全が一番ではないか。

令和7年度 小学校移転・統合 説明会 (対象：保護者・地域の皆さま)

安芸市では、南海トラフ地震の津波から、子どもたちの命を守るための学校移転が喫緊の課題となっています。また、児童の減少が進み、将来の小学校再編も課題となっています。

このような状況の下、子どもたちの命を守り、教育環境のさらなる充実をめざし、小学校の移転・統合を検討しています。

小学校の移転・統合については、現在の8校から旧清水ヶ丘中学校区で1校と、旧安芸中学校区及び赤野小学校区で1校の市内2校体制を前提に検討を進めてきましたが、新たに市内1校体制も検討しています。

つきましては、保護者・地域の皆さまへのご説明と、ご意見をお伺いするための説明会を開催いたします。

開催日程

19:00開始

日付	場所
1/13 (火)	下山小学校 (2階児童会室)
1/15 (木)	川北小学校 (南舎2階パソコン室)
1/20 (火)	伊尾木小学校 (2階図書室)
1/22 (木)	土居小学校 (2階音楽室)
1/28 (水)	井ノ口小学校 (多目的室)
1/29 (木)	安芸第一小学校 (西体育館)
2/3 (火)	穴内小学校 (ランチルーム)
2/5 (木)	赤野小学校 (3階パソコン室)

お問い合わせ先

